兵庫消防

発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人　関山　巧
定価　1部金44円
題字　井戸知事

あなたです
火のあるくらしの
見はり役

平成十七年度消防庁長官表彰

県下三消防機関一一一名が受章

平成十八年三月三日(金)、平成十七年度消防庁長官表彰式が、日本消防会館内ニッショーホールにおいて盛大に行われ、各表彰受章代表者に表彰旗等が授与されました。

県下の受章機関。受章者は次のとおりです。

本県受章機関・受章者

表彰旗　二機関

神戸市北消防団
東条町消防団

竿頭綬　一機関

姫路市姫路西消防団

功労章　九名

神戸市東灘消防団　団長　志井　一雄
たつの市御津消防団　団長　桝本　雅之
高砂市消防団　団長　田中　利昭
小野市消防団　団長　小林　正幸
神戸市消防局　消防正監　米谷　友宏
尼崎市消防局　消防監　早川　浄
西宮市消防局　消防監　辻　喜正
加古川市消防本部　消防司令長　松尾　和彦
猪名川町消防本部　消防司令長　井谷　丈志

永年勤続功労章　一〇二名

神戸市灘消防団　副団長　深田　徳次
神戸市兵庫消防団　副団長　伊庭　勝一
神戸市北消防団　団長　山谷　副就
神戸市須磨消防団　副団長　高山　壽和
神戸市西消防団　分団長　荒内　拓美
姫路市姫路西消防団　副団長　松本　芳樹
姫路市飾磨消防団　副団長　小林　良平
姫路市網干消防団　分団長　染川　正弘
尼崎市消防団　副団長　中田　正成
　　〃　分団長　小西　龍義
芦屋市消防団　分団長　福崎　有介
明石市消防団　〃　中堂　健
西宮市消防団　分団長　藤田　光男
洲本市消防団　副団長　萬國　俊治
淡路市消防団　副分団長　足立　一男
猪名川町消防団　副団長　高田　光雄
多可町消防団　分団長　綿谷　和博
相生市消防団　分団長　羽田野孝信
豊岡市日高消防団　副団長　水口　和美
豊岡市出石消防団　副団長　藤井　正昭
加古川市消防団　分団長　堤　昇一
　　〃　草水　敏
たつの市龍野消防団　副団長　福岡　好雄
赤穂市消防団　副団長　中西　尚
　　〃　分団長　渡海　正之
西脇市消防団　団長　遠藤　明
三木市消防団　部長　稲葉　寿幸
高砂市消防団　分団長　中務　慎一
川西市消防団　団員　三木　一彦
三田市消防団　分団長　七條　信夫
養父市消防団　副団長　小柴　勝彦
朝来市消防団　分団長　勝地　薫
　　〃　副団長　奥　義和
嵯峨山秀喜
猪名川町消防団　分団長　谷本　光生
多可町消防団　団長　笹倉　政芳
家島町消防団　団長　坂本　隆博
夢前町消防団　分団長　北浦　信清
太子町消防団　副団長　朝田　良男
上郡町消防団　副団長　日下　秀樹
佐用町南光消防団　副団長　小林　忠芳
佐用町三日月消防団　副団長　入江　進
新温泉町消防団　副団長　田渕　衛
香美町消防団　副団長　西内　一博
　　〃　邊見　八郎
神戸市消防局　消防正監　佐藤　正美
　　〃　飯田　正巳
　　〃　消防監　野辺　三郎
　　〃　鳥住　純二
　　〃　瀬戸　利夫
消防司令長　橋本　悟
　　〃　浮津　正典
　　〃　喜多　康夫
　　〃　小西　友紀
消防司令　渡邊　勤
　　〃　山下　隆司
　　〃　岩井　昭
消防司令補　太田　宝廣
　　〃　山口　善之
　　〃　小西　政信
　　〃　竹野　昭二
　　〃　河野　邦夫
姫路市消防局　消防司令長　藤田　雄三
消防司令長　牛尾　基好
　　〃　桂　昌宏
消防司令　堂平準一郎
尼崎市消防局　消防司令長　小林　廣
消防司令　古田　惠一
　　〃　武田　進
西宮市消防局　消防司令長　大坂　修二
　　〃　中倉　清
　　〃　堤下　俊幸
消防司令　阿利　正二
　　〃　中谷　孝幸
芦屋市消防本部　消防司令長　樋口　文夫
伊丹市消防局　消防司令長　中島　保次
相生市消防本部　消防司令補　山本　渉
豊岡市消防本部　消防司令　西川　達男
加古川市消防本部　消防司令長　吉田　博幸
　　〃　堀江　洋介
たつの市消防本部　消防司令　伊豆原敏弘
赤穂市消防本部　消防司令　中谷　裕彦
三木市消防本部　消防司令　前田　篤見
高砂市消防本部　消防司令　花光　民生
川西市消防本部　消防司令　甲斐　五郎
小野市消防本部　消防司令　横田　幹男
三田市消防本部　消防司令　今西　竹夫
加西市消防本部　消防司令　藤原　美文
篠山市消防本部　消防司令　藤田　良文
丹波市消防本部　消防司令　久下　悟
朝来市消防本部　消防司令　山田　卓己
宍粟市消防本部　消防司令　竹内　亨
猪名川町消防本部　消防司令　上田　昇
佐用町消防本部　消防司令　青木　一道
加東行政事務組合消防本部　消防司令　西山　修一
淡路広域消防事務組合消防本部　消防司令長　湯谷　広
中播消防事務組合消防本部　消防司令　田處　壱久
にしたか消防本部　消防司令　安西　秀樹
美方広域消防事務組合消防本部　消防司令　橋本　一也
　　〃　瓜ヶ平和美

第三二回消防団幹部特別研修を受講して

相生市消防団　河合　勝　団長

平成十八年一月十七日から二〇日までの四日間、日本消防会館において「第三二回消防団幹部特別研修」が開催され、本県より私に受講の機会を与えていただきました。

研修受講者は、各都道府県より一名の団幹部(団長二九名、副団長十八名)の参加で、行われました。

開講式は、日本消防協会徳田会長、総務省消防庁板倉長官のご臨席の中厳粛に行われ、辞令交付から始まり、徳田会長訓話、板倉長官挨拶、日本消防協会秋本理事長講話があり、参加者全員緊張の面持ちでした。

各講義とも講師団は、日本消防協会、総務省消防庁、東京消防庁等のわが国消防行政の中枢に席を置かれる方々で、講義内容は具体的で理解しやすく、国の消防施策等の最新情報を得ることが出来、大変参考になりました。特に感銘を受けたのは、聖路加国際病院理事長日野原重明先生の講義でした。先生は九〇余才の高齢にもかかわらず「日本の救急医療の問題点」の講義で、現在の救急救命士の医療行為が可能となったのは、先生の長年の努力と働きかけが、国の医療行政を動かしたことを熱く講義されました。研修生全員がメモを取り、熱心に聞き入っていました。

最終日の講義で「消防団災害活動事例」として、愛媛県今治市消防団長より、大三島山林火災の災害防ぎょ活動報告がありました。

今治市は、周辺十二市町が合併したのと同時に、消防団も統合し、旧消防団を方面隊組織としたため、横の協力体制が整っていなかったこと、島部の山林火災で水利に事欠いたこと、島内にある国宝を多く抱える大山祇神社を守ること、多勢の自衛隊との連携活動等、の苦労話が事例として提起されました。

午後からの閉講式においては、受講者四七名の代表として、私が修了証を代表受領し、研修会の全日程を終了しました。

消防団幹部として、使命を一にする全国の素晴らしい人達と出会うことが出来たこと。さらに班長として受講者の皆さんのお世話が出来、人とのつながりがより深まったと自負しています。

また、全国からの参加者に十月十九日兵庫県立広域防災センター(三木市)で開催される、全国消防操法大会に是非来ていただきたいことを宣伝してきました。

今回の消防団幹部特別研修という貴重な経験を与えていただいた、兵庫県消防協会に深く感謝を申し上げます。

この研修で学んだことを糧として、今後の消防団活動に邁進していきたいと意を決しています。

最後に、研修期間四日と短いながらも寝食を共にした、研修生の皆様の、ご健康とご活躍を祈念申し上げます。

消防団今昔 ㊾

夢前町消防団長　田路　耕作

夢前町消防団は、兵庫県北西部に位置し、北は神崎郡神河町に、東は神崎郡市川町・福崎町・香寺町に、西は宍粟郡安富町に接しており、面積一四六・二二㎢、人口二一、四〇四人の生命と身体・財産を守っております。

組織としては、昭和三〇年七月一日に「置塩村」「鹿谷村」「菅野村」の三村が合併し「夢前町」となりましたが、諸般の事情により、夢前町「置塩消防団」「鹿谷南部消防団」「鹿谷北部消防団」「菅野消防団」の四消防団となりました。そして昭和三八年一月一日統合により、手引ポンプ十八台、腕用ポンプ三台、定員一、一〇〇名の現在の夢前町消防団が発足しました。

私は、昭和十七年四月一日に十六才で新庄警防団予備団員として任命されました。当時は、機械係、給水係、まとい係、ホース係、急報係があり、私の任務は急報係で、火災時に団員に連絡する役に就きました。一年間勤めて、正団員として機械係に任命されましたが、当時のフォード社製の手引ポンプを作動させる時に、一瞬でも手を緩めると「けっちん（はねかえり）」になり、先輩に叱られ苦労したことを、今では懐かしく思います。

また、副団長拝命後の昭和五九年十月に発生した通称「氷室山」の林野火災の際、全町の消防団員の出動により、立木の伐採及び四方に防火帯を作り包囲し、消火作業を三日間行いました。約十三ヘクタールの山林を消失しながらも、他市町への延焼をくい止めたこと並びに一番の身の危険を感じたことは、今でも脳裏から離れません。

現在、夢前町消防団は三八分団、八〇〇名で構成され、スピードと格段の能力を兼ね備えた消防施設も充実し、小型動力ポンプ付積載車二六台（軽十四台・普通車十二台）、小型動力ポンプ二台、ポンプ自動車十台を配備し、有事の際の出動に備えています。

本年三月二七日、市町合併（姫路市・家島町・夢前町・香寺町・安富町）に伴い、今後は、新たな分団再編、組織の確立を目指すと共に、今後ますます消防団の担う責務が多くなる中、住民が安全で安心して暮らしができるよう努めてまいります。

元洲本市消防団分団長　池上　廣

私は、昭和三三年四月に洲本市消防団に入団しました。当時の分団班長から入団を勧められ、私は消防団活動にやりがいを感じていたことから、何の迷いもなく入団したことを思い出します。

さて、私が在籍していた内町分団は、当時、あらゆる面で洲本市消防団をリードしている分団でありました。先輩団員は活動意欲に満ちた方ばかりであり、常に一歩先を見据えた団活動に取り組んでいました。なかでも特に印象深いことは、車両や資機材の整備についてです。地元負担のあった時代ですので、分団は積極的に最新機材を導入しており、私が入団した時には既に、ポンプ車（三輪）を保有していました。また、私たちは色々なアイデア車両・資機材を整備していました。今でもめずらしい「救出車」という車両を昭和四〇年代に導入しました。これは、消火活動だけでなく救急においても常備消防を支援しようという考えから導入したものであり、特徴としてポンプ車の荷台部を屋根で覆い、その中に担架を積載しており、災害現場で負傷者が発生したときに、負傷者を病院へ搬送できる、まさに救急対応の消防車両でした。また、機材についても分団独自のアイデア機材がありました。これは使用済みのガスボンベに小さな穴をいくつも開け、これをノズルの代わりに筒先に取付けます。この状態で注水するとノズル（ガスボンベ）から四方八方に放水され、ちょうど残火処理用の資機材としてよく活用したものです。

また、分団は団活動においても積極的でありました。とりわけ操法においては洲本のみならず、淡路地区においても常勝隊であり、消防学校に入校すると教官に「また内町きたんか」と言われるほどでした。それだけ力をいれていたものですから、嫌というほど練習し、よく「百日操法」（※百日間の練習）と言われていたものです。

さて、話は変わりますが、現在は消防団員のなり手が少ないと聞きます。私が在職していた頃も、一般住民の消防団への認識不足から団員の確保は容易ではありませんでしたが、今はもっと団員確保が困難になっているようです。少子化やサラリーマン化等の様々な問題があると思いますが、やはり消防団の活動が正確に世間に知れわたっていないからではないでしょうか。この崇高な活動をより多くの方に認識していただきたいかぎりです。

最後になりましたが、在団時によく先輩から言われた言葉を書き記したいと思います。「消防団は団結という力が武器」、これは、消防活動は一人ではできず、また、一人ひとりがバラバラであっても成り立たないという当然のことですが、私の心に今も残っています。

退団後、月日が経ちましたが、今でも消防団のことは気にかけており、今後も陰ながら消防団を支援していきたいと思っております。

北から南から

初めての住民参加の出初式

太子町消防団

太子町は兵庫県南西部に位置し、往古から山陽道が通過するなど、交通の要所としてたえず先進的な文化を享受しながら、個性豊かに外に開かれた町で、面積は二二六二㎢、人口約三三、五〇〇人の町です。

町域には、飛鳥の昔から聖徳太子の『和』のご精神が伝えられ、中世に建立されたと伝えられる斑鳩寺をはじめ、そこかしこに悠久の時を感じさせる史跡が遺っています。

また、昨年七月に、スペースシャトル「ディスカバリー号」に搭乗され、船外活動のリーダーとして主要任務遂行に成功を収められ、日本国民に大きな感動を与えられた野口聡一宇宙飛行士は、少年時代を太子町鵤の地で過ごされました。

太子町は、昨今の自治体合併により揖保郡一町となり、常備消防においても昭和五六年から揖保川町、御津町とともに運営してきました、揖南消防事務組合を昨年九月末をもって解散し、十月からはたつの市へ消防事務を委託しています。

これを機に、従来、式典のみで実施してきました出初式を、住民への安心安全をアピールするべく、たつの市消防本部太子消防署の支援をいただきながら、式典の後、アトラクションを実施しました。

会場は、前述の野口聡一宇宙飛行士にあやかり、風船と凧を会場内のあちこちに上げて、宇宙・空をイメージしました。アトラクションの内容は、幼年・少年消防クラブ員による防火啓発のかわいい演技、消防団員と消防署員による「はしご乗り」、消防団員による昔ながらの腕用ポンプを使用しての放水合戦、そして、消防団員、消防署員及び町内企業の自衛消防隊員による一斉放水というものでした。また、婦人防火クラブ員と少年消防クラブ運営指導部の皆さんに炊き出しを実施していただき、寒い中参観いただいた皆さんに暖をとっていただきました。

初めての試みで、大成功とはいえませんが、約二千人の参観者にお越しいただき、広く防火防災意識が高められ、また、消防団の存在もアピールできたものと思っています。

出初式風景

平成１８年消防出初式（消防大会）日程表　（４月実施分）

地区	実施日	市町名	開始時刻	場所
阪神地区	4月9日（日）	三田市	9:00	三田市役所市営駐車場
中播磨地区	4月2日（日）	神河町	8:50	神河町立大河内中学校グラウンド
北播磨地区	4月2日（日）	西脇市	9:00	西脇市民会館
		三木市	9:00	三木市立三樹小学校グラウンド
		加東市	9:00	加東市社中央体育館、役場前駐車場
	4月9日（日）	小野市	9:00	小野市役所東駐車場
		加西市	10:00	加西市民会館
		多可町	8:00	ベルディーホール（文化会館）
西播磨地区	4月2日（日）	佐用町	9:00	佐用町立佐用小学校
	4月9日（日）	宍粟市山崎	9:00	宍粟市立山崎小学校グラウンド
		宍粟市一宮	10:30	宍粟市立一宮南中学校グラウンド
		宍粟市波賀	10:30	メイプルスタジアム
		宍粟市千種	8:50	宍粟市立千種南小学校グラウンド
但馬地区	4月2日（日）	養父市	9:00	養父市役所・八鹿文化会館
		豊岡市日高	9:00	日高総合支所
	4月9日（日）	朝来市	9:00	ジュピターホール
		新温泉町	9:00	新温泉町多目的活性化広場「すこやかドーム」
	4月16日（日）	香美町	午前中	村岡区内（場所未定）

わがまちの団長さん (133)

「更なる飛躍を目指して」

豊岡市出石消防団
石田　和正　団長

豊岡市は、平成十七年四月一日、兵庫県の北東部に位置する北但一市五町が合併して発足しました。人口は約八九、〇〇〇人、面積は六九七・六六㎢で、県下最大の面積を有しています。

石田団長は、昭和四八年四月に出石町消防団（当時）に入団、平成五年から十二年間副団長を務められた後、平成十七年四月からは豊岡市出石消防団長として活躍されています。

団長は、普段はとても気さくな方で、常に団長の周りには笑顔が絶えませんが、いざ、消防団活動になると、顔つきが一変し「鬼軍曹」の如く陣頭指揮を執られます。また、平成十六年十月二〇日の台風二三号災害の反省から、自主防災組織との合同水防訓練や消火訓練等を積極的に推進され、災害に強いまちづくりを目指し、鋭意努力されておられます。

その一方、現在、民生委員も務められており、消防団活動以外にも地域社会に多大なる貢献をされています。

そんな、団長の後姿を見て、三七一名の団員をはじめ、地域住民の方々からも厚い信頼が寄せられ、慕われておられるのではないでしょうか。

今後も、健康に留意され、地域住民の生命と財産を守るため、強力なリーダーシップをとり、ご活躍いただきますよう願っております。

『すべてが豪快！』『まさに団長！』

西宮市消防団
吉田　昭光　団長

そんな言葉が良く似合う、吉田昭光消防団長をご紹介させていただきたいと思います。昨年の四月に、第五代西宮市消防団長に就任された吉田団長は、昭和三七年、西宮市消防団に入団されました。入団後は、西宮市の中心街を担う分団において、災害現場の第一線として活躍されました。今まで、数々の災害現場を経験されていますが、やはりあの阪神・淡路大震災においては、西宮市で最も被害の大きかった本庁南地区副団長として、不眠不休で現場を指揮されました。団長に就任してからも、西宮市総合防災訓練、年末警戒時の巡視、出初式における表彰等、数多くの公務を積極的にこなされています。

吉田団長のもうひとつの顔として、西宮市農業委員長の肩書きがあります。委員会等において、積極的に議論し、農業生産力の向上に尽力されております。

そんな多忙な吉田団長の一服の清涼剤がもちろん“きゅっと一杯”の晩酌です。災害現場での厳しい表情からは想像も出来ないほど、たのしく、これまた豪快にお酒を楽しまれております。日本酒の熱燗を好み、その飲まれる量はご想像におまかせいたします。

お酒に自信のある方は、一度吉田団長と晩酌を交わしたらいかがでしょうか？きっと楽しいひと時を過ごせることでしょう。

地区通信

平成十七年度「伊丹市総合防災訓練」

伊丹市消防団

平成十八年一月十九日（木）小雪のちらつく中、「伊丹市総合防災訓練」が、大阪府との県境を流れる猪名川左岸河川敷（桑津橋東詰北側）をメイン会場として行われました。

今回は「震災の教訓を風化させることなく、安全で安心なまちづくりを推進するため、地域防災計画に従い実戦的総合訓練を実施することにより、活動要領の習熟、関係機関との連携強化、さらには市民の防災意識の高揚を図ること」を目的に計画がなされました。

十二時三〇分頃、兵庫県南東部を震源とするマグニチュード七・四の直下型地震が発生し、本市においては震度六強の揺れを観測し、市内各地でビル・家屋の倒壊やライフラインの途絶、車両事故が発生し、迅速な災害応急対応が求められているとの想定のもと、市役所七階での災害対策本部の設置訓練を皮切りに、災害対策本部から市内のFM放送局へ緊急割り込み放送や、CATV・メールマガジンシステムによる災害情報提供を行う「災害広報訓練」、「人員輸送訓練」や「交通規制訓練」など次々と訓練が行われました。

今回の訓練は“実戦的な訓練を”と言うことで、メイン会場のみならず、市内各地を訓練会場として訓練が実施されました。

避難勧告想定地区の地元自主防災会の協力を得て、消防・警察・自衛隊合同で実際に訓練避難勧告を行い、避難誘導とともに収容避難所へ各車両で輸送する「避難勧告・避難誘導訓練」、被災地の情報を収集し訓練対策本部へ情報伝達を行う「情報収集伝達訓練」など、実災害に即した訓練が実施されました。

メイン会場の猪名川左岸河川敷では、日赤奉仕団による「炊き出し訓練」や、県防災ヘリによる「航空救助訓練」、日本レスキュー協会のレスキュー犬が活躍した「救出・救助訓練」などが行われ、我が伊丹市消防団は、訓練の最後を飾る「大規模火災消火訓練」に参加しました。これは、地震により倒壊したビルや家屋から出火し、消火栓が使用不能と想定しての消火訓練です。

一台の車両が猪名川から自然水利を取り、分岐管を使って二台の車両へ中継送水を行い、中継を受けた車両からそれぞれ一線延長し倒壊ビル及び倒壊家屋への放水を行いました。

さっきまで「炊き出し訓練」での非常食の「豚汁」を片手に、「まだかまだか」と寒さに震えながら出番を待っていた団員も、いざ訓練となるとキリッとした顔になり、訓練会場に飛び出していきました。

この訓練を通じて「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を参加者全員で確認できました。今後も震災の教訓を風化させることのないよう、ますます訓練に励んでいこうと思います。

大規模火災消火訓練にて

吉谷式消防ポンプ自動車

営業品目

屈折梯子付消防ポンプ自動車
化学消防ポンプ自動車
水槽付消防ポンプ自動車
普通型消防ポンプ自動車
高発泡機付消防自動車
消防救助工作車
小型ポンプ積載車
シバウラ小型動力消防ポンプ
各種消防用品
消防用ホース

株式会社 吉谷機械製作所
本社・工場　鳥取市古海３５６の１
ＴＥＬ(0857)23−2211(代)
ＦＡＸ(0857)27−1766

地区通信

「一・一七は忘れない」地域防災訓練及び第一回養父市防災訓練

養父市消防団

平成十八年一月十五日、養父市立青渓中学校をメイン会場に、防災訓練が行われました。

これは、阪神・淡路大震災と一昨年の台風二三号災害などの被災経験と教訓を私たち一人ひとりが忘れず、今後の防災活動の充実を図るために、養父市と兵庫県但馬県民局が主催したものです。

訓練には、地元自主防災組織をはじめ、学校や消防団、国土交通省、自衛隊など約八百五十人が参加し、行政と住民が一体となって、災害への備えと助け合うことの大切さを確認しました。

訓練は、午前九時三〇分に南但馬地域を中心に震度六強の地震が発生したと想定し、実施されました。

間もなく市は災害対策本部を設置し、情報収集や各団体への指示訓練を開始しました。まず、消防車等によって住民への避難勧告が行われ、地域住民や小中学校生徒らが学校体育館に避難しました。

その後、地震による火災発生を想定して、地元地区の自主防災組織が、バケツリレーと消火器を使った初期消火訓練を行いました。

グラウンドでは、地震によって多くの負傷者が出ることを想定し、自衛隊や消防本部救急隊によって、医療救護所と応急救護所が迅速に設営されました。

その後、消防団員らが土砂を撤去し、埋没した車両から負傷者を救出、また、市消防本部の救助隊員が、倒壊した家屋の屋根にチェーンソーなどの工具を使用して救出口を確保し、家屋内に閉じこめられた負傷者の救出と搬送訓練を実施しました。

また、災害対策本部は兵庫県消防防災航空隊にヘリコプターを要請し、高所救出訓練として、同隊のヘリコプターから青渓中学校屋上に隊員が降下し、取り残された負傷者を救出しました。

その後、消防本部と消防団による消火訓練と、市婦人防火クラブのみなさんらによる非常食の炊き出し訓練が行われました。

訓練終了後に行われた閉会式では、西村但馬県民局長が「阪神・淡路大震災と台風災害の教訓を踏まえ、多くの団体のみなさんが参加し、緊張感のある訓練ができました。」と講評されました。

梅谷養父市長は、「万が一の場合にいかに対応するかを実践するための今回の訓練が、官民一体となって意義のあるものになったと思います。今後も安全・安心な地域となるよう行政を進めていくとともに、お互いに助け合う心を市内に充満させていかなければなりません。」とあいさつしました。

バケツリレー

搬送訓練

消化訓練

中学生作文コンクール

◎佳作賞

「父と僕と消防団」

たつの市立龍野西中学校
三年　藤田　真世

ある夏の日の夕方。缶ビールを片手にプロ野球のナイター観戦をしようとテレビのスイッチに手をのばした父の動きがふと止まった。耳をすますと遠くの方で火事を知らせるサイレンがなっている。次の瞬間父は缶ビールを冷蔵庫に戻し、長靴とヘルメットをつかみ家を飛び出していく。

またある冬の日の夜中、普段は一度眠ってしまうと少々のことでは目を覚ますことのない父が、耳元で母に

「お父さん、サイレン」

とささやかれただけで飛び起き、着替えもそこそこに出かけて行く。そう、僕の父は地元の消防団員なのである。僕の父の職業は中学校教師である。オーケストラ部の顧問もしているため、土曜、日曜、祝日もほとんど家にはいない。したがって、消防団の活動に参加出来るのも、ごくたまの休みの日か、夜の火災消火の時に限られる。僕自身幼い頃は消防団の制服を着てポンプ車に乗る父をただ単純に「かっこいい」と思っていたが、成長するにつれ、休日に家族で買い物などに出掛けようとした時にサイレンが鳴りはじめ、

「ちょっと待っといて。」

と言い、家族を待たせて消火活動に出ていく父を「せっかく出掛けられると思ったのに。家族を放ってまでお父さんが行かなあかんのか。たまの休みやのに、家でちょっとくらいのんびりしとってもええのとちゃうんか。」とうらめしく思ったこともあった。活動を終えて帰ってきた父と、予定より大幅に遅れた外出となったことも一度や二度ではない。ある時、もうがまん出来なくなり、

「消防団の仕事は大切なのはわかる。でも、お父さんがせんでも他の誰かがやってくれるやろ。」

と言った僕に父は、

「誰かがせなあかんから、お父さんがするんや。出来ることはするもんや。」

と言った。父の信条は「出来ることはする」である。事あるごとに「出来ることはやっとけ」と言われてきた僕であるはずなのに、消防団活動の中にも父のその信条がこめられていることに気づいていない自分がそこにいた。「誰かがやらなければならないことを僕の父がする」そのことで助かる人、嬉しい思いをする人がいるかもしれない。面とむかっては決して言えないが、僕にはやっぱりちょっと父がかっこよく見えた。

また家族で出掛けようとした時にサイレンが聞こえてきた。

父はいつものように

「ちょっと待っといて」

と言い家を出ていった。僕は

「まあ仕方がない。ゲームの続きでもして待っとくからがんばってきて」

と部屋に戻った。

「わたしの町の消防団」

上郡町立上郡中学校
一年　金澤　みのり

「ウ～ウ～」

「あっそうか。今日は消防の訓練の日やったな。」

毎月第一日曜日の朝、私はこのサイレンの音で目が覚めます。小さい頃はこの音に驚いて、いつも泣いていたそうです。

中学生になった今では、訓練に出かけて行く父の後ろ姿を見て、

「たいへんやなぁ。ごくろうさま。」と思えるようになりました。

そんなふうに思えるようになったのは、小さい頃から地域の消防団の人達の仕事を幾度となく見てきたし、ふれ合う機会がたくさんあったからだと思います。

地域の消防団の人達は、自分の仕事を持ちながら日夜地域の防災のために頑張ってくれています。たとえ夜中でも、自分の仕事をしている時にでも、災害があるとすぐに連絡をとり合い急いで出かけて行きます。

父が分団長をしていた時などは、すぐに出かけられるように毎晩自分の布団の横に消防の服を置いて寝ていました。

作業を終えて家に帰って来た父は、とても疲れているのに、また自分の仕事へと出かけて行きます。

私はそんな一生懸命の父を誇りに思っているし、尊敬しています。

父の活動を見ていると消防団の仕事は、火事の消火活動だけではなく、さまざまな仕事があるのだと知りました。日頃の訓練もそうですが、町の行事等での警備、祭礼等の警戒、台風などで警報などが出ると、ずっと屯所で待機しています。そして年末の夜警。私は生まれてからまだ、一度も父と一緒に年越しをしたことがありません。少し淋しいですが、これも私たちが安全に眠れるように朝までずっと見回りしてくれているのだと思うと、感謝の気持ちで一杯です。私はこれからも父の口ぐせの『いつも防災意識を持つこと』を忘れず、自分なりに気をつけなければならない事を考え、きちんと守っていこうと思います。

最後に、

「消防団員さん、いつもありがとう。」

平成十八年度 女性消防団員研修会決定!!

兵庫県消防協会では、平成十八年度女性消防団員研修会を七月一日（土）、十一月十八日（土）に県立広域防災センター（三木市志染町）で開催することになりました。

県下女性消防団員の皆様、ぜひともご参加ください。研修内容で、こんなことやってほしい等あれば、事務局（県庁消防課内）までご提案ください。

なお、詳細は、各支部を通じて連絡します。

編集後記

太陽の光も明るさを増し、日ごとに春めいてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、平成十七年度消防庁長官表彰受章者の皆さんを掲載しております。心からお祝い申し上げます。また、消防団今昔には元洲本市消防団分団長池上廣さん、夢前町消防団長田路耕作さん、消防団幹部特別研修の感想文を相生市消防団長河合勝さんよりご寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

今年度もご寄稿、ご愛読ありがとうございました。来年度も紙面の充実に努めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【事務局からのお知らせ】

「兵庫消防」四月号は休刊とさせていただきます。